

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

ノリ大凶作 価格暴落



正常なノリ(左)と色落ちノリ(右)

佐賀で一二分の一

先月、佐賀県西部から始まった養殖ノリの「色落ち」被害は拡大を続け、現在、佐賀県全域から、福岡県の筑後川河口付近、熊本県荒尾市など有明海沿岸全域に広がっている。

2月中旬、佐賀県西部では、3600枚収穫したノリに5000円の値段しかつかず(1枚1・3円)出荷すらできない状態が続いている(1枚3円以上でない)と共販に出荷できない。今年度のノリの単価は今年1月の冷凍網初入札時点では、平均17・6円であったが、わずか1カ月で12分の1まで下落することとなった。

調整池排水が原因

今年度のノリの色落ちは、諫早干拓潮受堤防北部排水門から調整池の汚水が大量に排出された直後から始まった。しかも、色落ちは、北部排水門に近い佐賀県西部から東部、福岡県へと広がってきており、漁業者たちは、調整池からの排水がノリの色落ちの原因であると声を上げている。

現在、諫早干拓調整池では、調整池内を淡水化し、排水時のみ水門を開け、調整池内に溜まった水を排出するのみで、有明海の海水を調整池に導入することはしていない。その結果、調整池に溜まった水は腐り続け、COD、BOD、全チンソ、全リンなどすべての項目において環境基準を大幅に超える程、汚染が進んでいる。

開門で水質改善

調整池では水位をマイナス1メートルに保つためノリ漁期であっても調整池に溜まった汚水を有明海に排出せざるを得ず、調整池の水質が改善されない限り、ノリの色落ち被害の不安は永久

消えることはない。当面は、北部排水門からの排水量を少なくするなどの暫定的措置により漁業被害を最小限にすることが必要であるが、根本的な解決のためには調整池の水質を改善するしかない。そのため、排水門の開閉操作において、現在のような汚水を垂れ流すだけの一方通行ではなく、満ち潮時にも水門を開け、調整池内に海水を導入することで海水と調整池内の淡水を相互に交流させ調整池の水質を抜本的に改善するしか方法はない。

日本共産党・社民党と懇談 有明漁民



漁業者の説明に熱心にメモをとる共産党国会議員

1月8日、有明海の漁業者(長崎県諫早市の漁業者夫婦、同県島原市の漁業者)は、日本共産党国会議員団と懇談し、諫早湾干拓事業による漁業被害と、有明海を再生に向けた潮受堤防の開放を訴えた。日本共産党からは、穀田、吉井、赤嶺、紙、仁比議員が出席し、開門を勝ち取るまで国会でも戦い続けること等を約束した。



福島社民党党首、近藤議員と漁業者たち

2月6日、有明海漁業者ら(諫早市の漁業者、福岡県大牟田市の造船業者)は、福島社民党党首、近藤議員と懇談し諫早湾干拓事業によって漁業だけでなく造船業などの周辺事業も被害を受け地域が崩壊している実情を訴えた。福島党首らは、裁判と政治が両輪になって解決しなければならぬ重要な課題と語った。